

留守家族たちの肖像

ほんろう

—— 抑留に翻弄された人々 ——

抑留者の早期帰還を訴えた者もいた。

抑留者を何十年も待ち続けた者もいれば、

ついに耐えきれず、

別の家庭を築いた者もいた。

抑留者の死に絶望した者もいれば、

遺品の返還を求めた者や、

遺族同士で連帯した者もいた。

2026年

1月20日(火)

4月19日(日)

開館時間：9時30分～17時30分（入館は17時まで）

休館日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）、2月1日（日）
会期中に一部資料の展示替えを行います



佐藤清「岸壁の母」

歌謡曲「岸壁の母」のモデルとなった、満洲から帰らぬ息子・新二氏の帰還を待ち続けた端野いせ氏の姿を、新二氏と同じ部隊にいた抑留画家・佐藤清氏が描いたもの。



入館無料



帰還者たちの記憶
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINEES
IN SIBERIA, AND POSTWAR REPATRIATES
平和祈念展示資料館〔総務省委託〕



留守家族たちの肖像

—— 抑留に翻弄された人々 ——
ほんろう

1945(昭和20)年8月以降、ソ連・モンゴル軍は60万人余りの人々を連行・抑留し、強制労働を課しました。抑留者が大変な労苦を経験したことは言うまでもありませんが、大変だったのは本人ばかりではありません。見落とされがちではあるものの、その陰には、言葉にならないほどの苦悩を抱え続けた、残された数百万人の留守家族がいたのです。

無論、留守家族にとって、身内が何年も帰還しないこと自体が耐え難い精神的苦痛ですが、加えて、成人男性(家父長)中心の社会だった当時の日本では、抑留者の不在は経済的・社会的な困難に直結しました。そのため、抑留者の早期帰還を求めて運動を起こす者もいれば、抑留者の帰還を待つ生活に耐えきれず別の家庭を築く者もいました。あるいは抑留者の死を知らされて絶望する者もいれば、ソ連に遺品の返還を求める者や、遺族同士の相互扶助を始める者もいました。

2026年は抑留者の帰還が始まってから80年の節目の年に当たります。本企画展では、聞こえの良い美談には収まらない、様々な抑留者の留守家族の生の姿を手紙や写真などで紹介します。



有名な抑留者・山本輔男氏が収容所で書き、同氏の死後にモジミ夫人がソ連から取り返した壁新聞 1952(昭和27)年頃



抑留者の早期帰還を訴え、高野山の奥之院を行進する留守家族たち 1947(昭和22)年8月22日

関連イベント [予約不要 参加無料]

▶ 担当学芸員によるギャラリートーク

1月24日(土)、2月15日(日)、3月15日(日)、4月19日(日) 各日13時～(約40分)

▶ 体験者による語り部お話し会

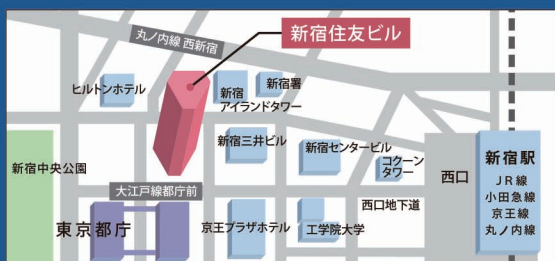
2月15日(日)、3月15日(日)、4月19日(日) 各日14時～(約60分)

抑留体験者の方々が登壇予定です。なお、語り部のご都合やご体調により、登壇者が急遽変更になる場合や、会場とご自宅をオンラインでつなぐ形式になる場合がございますので、最新情報をホームページやSNS等でご確認ください。

先着入場順で満席になり次第、ご案内を終了いたします。都合によりプログラムが変更になる場合がございます。ご来館の前に当館ホームページでご確認ください。



高野山の根本大塔で演説する「帰還促進運動の父」大木英一氏 1947(昭和22)年8月22日



東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階

Tel. 03-5323-8709 <https://www.heiwakinen.go.jp>



@heiwakinen

▶ 都営大江戸線(都庁前) 駅A6出口より徒歩約1分

▶ 東京メトロ丸ノ内線(西新宿) 駅より徒歩約5分

▶ JR 線、小田急線、京王線(新宿) 駅西口より徒歩約10分



帰還者の
たちの
記憶
ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINÉES
IN RUSSIAN AND POSTWAR REINTEGRATED
平和記念展示資料館(総務省委託)